

# 記載要領

様式第4の八(第4条、第5条関係)

## 屋外タンク貯蔵所構造設備明細書

事業の概要		1			
2 貯蔵する危険物の概要		引火点		貯蔵温度	
基礎、据付方法の概要		3			
タンクの構造・設備	形状	4	5 常圧・加圧( kPa )		
	寸法	6	容量	7	
	材質、板厚	8			
	9 通気管	種別	数	内径又は作動圧 mm kPa	
		種別	数	作動圧 kPa	
	10 安全装置				
	液量表示装置	11	12 引火防止装置	有・無	
	不活性気体の封入設備	13	タンク保温材の概要	14	
注入口の位置	15	16 注入口付近の接地電極	有・無		
17 防油堤	構造		容量	排水設備	
ポンプ設備の概要	18				
避雷設備	19				
配管	20				
消火設備	21	タンクの加熱設備	22		
工事請負者住所氏名	23			電話	

備考 この用紙の大きさは、日本産業規格A4とすること。

## 記載要領

### [ 屋外タンク貯蔵所構造設備明細書記入要領 ]

1. 「事業の概要」欄は、事業の内容について具体的に記入する。
2. 「貯蔵する危険物の概要」欄中、「引火点」欄は、中仕切りタンクの場合、最も低い引火点を記入し、「貯蔵温度」欄は、加熱設備等常温以外の状態で貯蔵する場合に記入する。
3. 「基礎、据付方法の概要」欄は、例えば「 m P C 杭を 本を打設し、その上に厚さ . m の鉄筋コンクリート基礎を設ける。タンク下部は、アスファルトモルタルを敷設する。」等と記入する。
4. 「形状」欄は、形状及び屋根形状を「縦置円筒型（コーンルーフ）」「横置円筒型（中仕切り）」等と記入する。
5. 「常圧・加圧の別」欄は、圧力が 5 k P a （水柱 5 0 0 mm）以下のタンクについては「常圧」に をつけ、その他のタンクについては「加圧」に を付け、その圧力を記入する。
6. 「寸法」欄は、内径、高さ、側板高さ、胴長、鏡出等を記入する。
7. 「容量」欄は、「内容積 リットル、空間容積 リットル（ . %）、容量 リットル」と記入する。
8. 「材質、板厚」欄は、縦置円筒型の場合、「底板 mm S S 4 0 0、側板最下段 mm S S 4 0 0、2 段 mm S S 4 0 0、・・最上段 mm S S 4 0 0、屋根板 mm S S 4 0 0 等」と記入し、横置円筒型の場合は、胴板、鏡出について、角形の場合は、側板、底板、屋根板について材質、板厚を記入する。
9. 「通気管」欄中、「種別」は無弁通気管又は大気弁付通気管の別、「数」はタンクに設けられる数、「内径又は作動圧」は無弁通気管にあっては内径、大気弁付通気管にあっては内径及び作動圧をそれぞれ記入する。
10. 「安全装置」欄は、圧力タンクに該当するタンクについて記入するものとし、「種別」は規則第 1 9 条第 1 項各号に掲げる種別、「作動圧」は「 kPa」等と記入する。
11. 「液量表示装置」欄は、例えば「浮子方式による液面指示計」等と記入する。
12. 有・無のいずれかに を付ける。
13. 「不活性気体の封入設備」欄は、設備等の概要を記入する。例えば「窒素ガスシール。増減圧時の警報設備を設置」等と記入する。
14. 「タンク保温材の概要」欄は、タンク外面に保温材が使用されている場合に、その材質、固定方法等を記入する。
15. 「注入口の位置」欄は、例えば「 タンクの南西側 m に注入口（注入口数口）を設置。」等と記入する。
16. 有・無のいずれかに を付ける。
17. 「防油堤」欄中、「構造」は、例えば「鉄筋コンクリート造（高さ mm、厚さ mm）」等と、「容量」は「 リットル」と、「排水設備」は、例えば「集水桝 基を防油堤内に設け、これより金属管により排水。堤外吐出口付近にしゃ断弁を設置」等とそれぞれ記入する。
18. 「ポンプ設備の概要」欄は、ポンプ種類、基数、防爆構造、ポンプ室の場合は建物構造等を記入する。例えば、「ギヤーポンプ 基、モーター kW 基（受入）モーター kW 基（払出）」等と記入する。
19. 「避雷設備」欄は、J I S A 4 2 0 1 によるとともに、その概要を記入する。
20. 「配管」欄は、材質、口径、接続方法、防錆・防食方法を記入する。
21. 「消火設備」欄は、該当設備を記入する。
22. 「タンクの加熱設備」欄は、タンクに設置する加熱設備の概要及び加熱媒体を、例えば、「S G P 4 0 A スチームコイル」等と記入する。
23. 「工事請負者住所氏名」欄は、工事を請け負う法人の名称及び住所並びに工事責任者の氏名、電話番号を記入する。